

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第14回運営委員会 議事要旨

- 1 日時：令和5年3月16日（木） 10時00分～11時00分
- 2 場所：オンライン（Zoom）
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、佐波、柳生、大野（真城委員代理）、小山（秋山委員代理）、長瀬、舟橋（星川委員代理）、安部、福島、玄地、岡部（佐々木委員代理）、Li、岡島、石濱
陪席者：松室（防災科学技術研究所）、松本（〃）、倉谷（〃）、田代（〃）、菊池（〃）、高田（セコム）、山本（電力中央研究所）、杉山（産業技術総合研究所）、木下（筑波大学）、高野（〃）、栗原（〃）、酒井（〃）、根本（〃）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

【審議事項】

(1) 次年度の運営委員会及び幹事会の構成について

遠藤副会長から、資料1-1～1-4に基づき次の説明があり、承認された。

- 林会長が防災科学技術研究所を離職されることに伴い、今年度末で運営委員会委員を離任する（運営委員会委員離任に伴い、会長及び幹事会委員も離任となる）
- 防災科学技術研究所林理事長の後任者が4月1日付けで運営委員会委員に就任する
- 各参画機関の4月の定期異動を見込み、4月初めに事務局から運営委員会委員の交代等の有無を照会する
- 5～6月開催予定の総会で運営委員会委員を決定のうえ、会長の互選（残任期間1年）を行う
- 会長決定までは遠藤副会長が会長を代行し、林会長はオブザーバー出席する

(2) 令和5年度コンソーシアム活動企画（案）について

遠藤副会長から、資料2に基づき次の説明があり、承認された。

- ① 各参画機関の要望・意見のヒアリング結果報告（5～6月総会）
- ② 参画機関で開催する総会・運営委員会（見学会含む）の再開
- ③ ピッチ会第2弾開催（8～10月頃）
- ④ シンポジウム開催（単独8～10月頃、共同2月頃）
- ⑤ JST 共創の場形成支援プログラム本格型への移行申請（11月頃）
- 各参画機関の4月の定期異動を見込み、①～⑤の日程調整は年度明けに行う予定

(3) その他

特になし。

【報告事項】

(1) Joint Seminar 減災との第3回共同シンポジウム開催報告

遠藤副会長から、資料3に基づき次の報告があった。

- 令和5年2月14日（火）にハイブリッド形式で開催

- 参加者：247 名（会場 31 名、オンライン 216 名）
- アンケート回収率：51.8%

(2) 第 22 回幹事会（R4.11.9）について

遠藤副会長から、資料 4 に基づき第 22 回幹事会の議事の報告があった。

(3) 第 23 回幹事会（R5.2.14）について

遠藤副会長から、資料 5 に基づき第 23 回幹事会の議事の報告があった。

(4) JST 共創の場形成支援プログラムについて

遠藤副会長から次の報告及び説明があった。

- 令和 4 年度はワークショップ 18 件（拠点 6、研究開発課題 11、その他 1）、シンポジウム 1 件、その他委員会等 20 件を実施（資料 6-1）
- 令和 5 年度は参画自治体の住民の声を聞くワークショップ等を通して拠点ビジョンを作り込み、本格型申請に備える予定（資料 6-2）
- 現在 R2EC は協力機関の位置付けだが、本格型移行後は参画機関として参加いただきたい
- 5～6 月の総会で改めて説明後、各参画機関に参画の意向を照会予定。事前説明を希望の場合は事務局に申し出いただきたい

(5) その他

- ・遠藤副会長から、次の情報共有があった。
- 北海道大学・九州大学・民間 10 数社が R2EC を参考とした「資源系教育コンソーシアム」を立ち上げ、デュアルディグリープログラムを推進している
- ・次年度以降の R2EC の活動について次の意見交換があった。
- 佐波委員：コンソーシアムとして「今年度はここに力を入れていきたい」という活動指針が必要と思われる。各参画機関から筑波大学に意見を投げ込める機会があると良い。
- 遠藤副会長：各参画機関の意見や要望を筑波大学の教育プログラムに反映することが立ち上げの趣旨。E-mail でも良いので意見や要望を事務局に寄せて欲しい。
また、大学としては参画機関が求める人材を送り出せたかがアウトプットのひとつと考えている。
- 甘利副会長：参画機関が学生に対して就職等に係る PR が出来る機会があると良い。
- 岡島委員：RERM（リスク工学研究会）は研究のみならず幅広いテーマを扱うことが可能。
RERM で学生向けに講演や説明会を行って欲しい。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【審議事項】

(1) その他

特になし。

【報告事項】

(1) 令和 5 年度協働大学院教員及び非常勤講師について

岡島委員から、資料 7-1～7-2 に基づき次の報告があった。

- 日本自動車研究所の内田信行教授（協働大学院）が今年度末で退任予定であり、新規の協働大学院教員人事が進んでいる
- 今年度末に協働大学院教員を主指導とした初の修了生（博士号取得見込 1 名、修士号取得見込 2 名）を輩出予定であり、次年度も協働大学院教員による主指導・副指導体制を拡充予定

(2) 令和 5 年度開設授業について

岡島委員から、資料 8 に基づき次の報告があった。

- リスク・レジリエンス工学概論：理工情報生命学術院の共通科目として、他学位プログラムの学生からも幅広い受講がある
- サイバーレジリエンス演習：共同で科目を担当している筑波大学専任教員が出向中のため、島岡政基準教授（協働大学院）に多くの授業時間数を担当いただいている

(3) 学位プログラムオープンキャンパスの開催について

岡島委員から、資料 9 に基づき次の報告があった。

- 令和 5 年 4 月 23 日（日）にハイブリッド形式（筑波大学総合研究棟 B 棟＋オンライン）で開催
- 次年度から博士後期課程は 7 月に受験し同年 10 月入学が可能となる
- 各参画機関で学位取得に興味のある社員・職員に向けて、大学から郵送されるポスター・リーフレットを周知いただきたい
- 令和 5 年度実施の入学試験募集要項は 4 月末に公開予定

(4) 令和 5 年度開催「大学院教育改革フォーラム」について

岡島委員から、資料 10 に基づき次の説明があった。

- 令和 5 年 12 月 1 日（金）～2 日（土）つくば国際会議場で開催予定（幹事校：筑波大学）
- 卓越大学院プログラム主体のフォーラムであるが、準備室長より協働大学院プログラムにも参加依頼があった
- 「産業界との連携による学際化」等の観点から、R2EC 参画機関にもパネルディスカッションへの参加をお願いする可能性がある

(5) その他

・岡島委員から、次の説明があった。

- 筑波大学で協働大学院方式を実施する 2 学位プログラム（ライフイノベーション/リスク・レジリエンス）共同でリカレント教育に係る事業を計画している。なお、R2EC 参画機関に協力をお願いする際には改めて説明の場を設けさせていただく。

議事終了後、林会長から離任に伴う謝辞が述べられた。

以上